

令和元年6月12日現在

機関番号：32687

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02594

研究課題名(和文) 『三国志演義』二十四巻系後期諸本の研究

研究課題名(英文) Studies of Twenty-four-volume late editions of "Sanguozhi-Yanyi"

研究代表者

中川 諭 (NAKAGAWA, Satoshi)

立正大学・文学部・教授

研究者番号：20261555

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：『李笠翁批閱三国志』(李漁本)の主たる底本は遺香堂本であろう。しかし部分的に李卓吾本を底本にしている。『精鑄合刻三国水滸全伝』は、『三国志演義』部分が半葉十三行の原刻の「英雄譜本」と半葉十四行の「二刻英雄譜」本の二種類があり、それぞれ原刻本と翻刻本とがある。いわゆる「英雄譜本」には、実際には四種類が存在している。

『三国志演義』二十四巻系後期諸本のうち鍾伯敬本・英雄譜本・遺香堂本は、呉観明本を直接の底本としている。すなわち呉観明本から明末清初期の『三国志演義』版本の多くが派生しており、明末清初期の『三国志演義』版本の成立と出版を考える際に、呉観明本は決して軽視できない、極めて重要な版本である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『三国志演義』の二十四巻系後期諸本は、刊行年が比較的遅いことから、それほど重要視されてこなかった。しかし本研究をとおし、『李卓吾先生批評三国志』の中の呉観明本が、二十四巻系後期諸本の直接の底本となることが明らかになった。すなわち呉観明本は、明末以降の『三国志演義』諸本の基礎となった重要な版本である。明末期以降の『三国志演義』版本の変遷と出版状況について、重要な問題点を投げかけることになった。

研究成果の概要(英文)：The main source of "Li-Liweng Piping Sanguozhi" will be the Edition of printed by Yixiangtang. However, it is partially based on the Editon of Li Zhuowu. "Jinjuan heke Sanguo Shuihu Quanzhuan" has two kinds of editions. One is an edition of 13lines on the half leaf and another one is an edition of 14 lines on the half leaf. There are original and reprinted books. There are actually four types of so-called "Herobook". In the 24 volumes of "Sanguoyanyi", the edition of Zhong Bojing, the edition of Yingxiongpu and the edition of Yixiangtang are based on the edition of Wuguanming as a direct source. In other words, many editions of "Sanguoyanyi" printed at the end of Ming dynasty and early of Qing dynasty are derived from the edition of Wu guanming. When considering the formation and publication of the "Sanguoyanyi" editions printed at the end of Ming dynasty and early of Qing dynasty, the edition of Wu Guanming is never neglected, and will be a very important edition.

研究分野：中国古典小説版本研究

キーワード：三国志演義 版本 二十四巻系 李卓吾本 鍾伯系本 英雄譜本 遺香堂本 李漁本

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで長年にわたって従事してきた『三国志演義』の版本研究は、毛宗崗本の成立過程から始まり、『三国志演義』諸本は大きく三つの系統に分けられること、『三国志演義』にも繁本と簡本が存在することという結論を導き出した。そして、『『三国志演義』版本の研究』(1998年、汲古書院。以下、「拙著」と称する)を上梓するに至った。

拙著刊行後、日本国内・中国問わず『三国志演義』の版本研究が盛んに行われるようになり、次々と新しい研究成果が発表された。また新資料の発見やコンピュータ技術の大幅な発展によって、『三国志演義』の版本をめぐる研究状況は大きく変化してきた。

こうした中で2010年度から2012年度の3年間、「周曰校刊『三国志通俗演義』についての研究」という研究課題で、また2013年度から2015年度の3年間は「『李卓吾先生批評三国志』諸本の研究」という研究課題で、それぞれ科学研究費補助金(基盤C)を獲得し、研究計画に基づき研究を遂行してきた。その成果は以下のとおりである。

周曰校刊本について、甲本の刊行が最も早く乙本がそれに次ぎ丙本の刊行がもっとも遅いこと、現存する乙本二種・丙本数種それぞれの印刷の順序を明らかにした。続いて『李卓吾先生批評三国志』(以下「李卓吾本」と称する)について、大きく四つの系統に分けられること、それぞれの系統の中における各本の印刷の順序、呉観明本は台湾国家図書館蔵本の覆刻であることを論じ、さらに従来用いられていた李卓吾本各本の簡称は必ずしも適切ではないため、新たな簡称を用いることを提唱した。

これらの研究によって、拙著ではまだ明らかにし得なかった『三国志演義』二十四巻系諸本の問題をおおよそ解決することができた。

さて、拙著で取り上げた二十四巻系諸本には、さらに『鍾伯敬先生批評三国志』(「鍾伯敬本」)・『李笠翁批閱三国志』(「李漁本」)・『精鏤合刻三国水滸全伝』(「英雄譜本」)がある。また拙著では取り上げなかった版本に遺香堂刊『三国志』(「遺香堂本」)がある。これらを総称して「二十四巻系後期諸本」と呼ぶ。これら二十四巻系後期諸本は李卓吾本の系統を引くであろうとある程度は分かっていたし、また鍾伯敬本と李漁本については拙著においても論じた。しかし、最近の研究で明確になったことを踏まえると、拙著の結論はいまだ不十分と言わざるを得ない。また二十四巻系後期諸本それぞれには複数の本が各地の蔵書機関に残されているが、それらが本当に同版なのか、もし同版だとすれば印刷の順序はいかなるものなのか。これらの問題は出版文化研究として極めて重要な問題であるが、現在のところ何ら明らかにされていない。さらに遺香堂本は、李卓吾本をはじめその他二十四巻系諸本とどのような関係にあるのか、ということについても探求する必要がある。

そこで本研究において、現存する二十四巻系後期諸本をできるだけ網羅的に調査し、この本をめぐる諸問題を詳細に検討していくことにした。

2. 研究の目的

(1) 二十四巻系後期諸本各本の同版異版の確定と同版の本の印刷の順序を明らかにする。

鍾伯敬本・遺香堂本・英雄譜本・李漁本と称される版本がそれぞれ複数あり、各地の図書館や蔵書機関に蔵されている。たとえば鍾伯敬本は東京大学東洋文化研究所と天理図書館に、遺香堂本は残本を含めてイェール大学図書館・東京都立中央図書館などに、英雄譜本は国立公文書館・尊経閣文庫などに、李漁本は京都大学・中国国家図書館などに蔵されている。これらは従来単純に同版と理解されていたが、必ずしも検証されてはいない。また同版であれば、その印刷の順序を確定する必要がある。本研究ではまずこの問題について取り組む。

(2) 鍾伯敬本・遺香堂本・英雄譜本・李漁本と李卓吾本四系統との関係を明らかにする。

二十四卷系後期諸本が李卓吾本と関係が深いことは、従来指摘されてきたし、拙著においても具体的に論じた。しかし単に「李卓吾本」との関わりについて指摘されているに過ぎず、最近の研究で明らかになった李卓吾本四系統との関わりについては考慮されていない。そこで二十四卷系後期諸本それぞれについて、李卓吾本四系統のどれと深い関係にあるのか、李卓吾本のどの系統を底本にして成立したのか、ということについて考察する。

(3) 鍾伯敬本・遺香堂本・英雄譜本・李漁本の相互関係・先後関係を明らかにする。

二十四卷系後期諸本それぞれが、李卓吾本とだけでなく、相互に関係があるのかについても検証を行う。

(4) 二十四卷系諸本全体の版本変遷を再検討する。

本研究の成果と申請者の最近の周曰校本・李卓吾本についての研究成果を関連づけて、拙著の内容を基礎としながら、二十四卷系諸本全体の版本の変遷について改めて考察する。

3. 研究の方法

本研究を遂行し目的を達成させるために、原本閲覧・資料収集と整理・各本相互の比較（原本または画像データ）・各本本文のテキストデータの比較・分析と考察という手順を取る。書誌学（版本学）という本研究の性質上、資料はできるだけ原本に直接当たることが望ましい。原本を直接比較することが難しい場合は、画像データ（デジタル写真）を使用する。画像データやテキストデータの比較は、周文業氏が開発された「図像対比」・「文本対比」などのプログラムを利用して、コンピュータ上で行う。コンピュータによって得られた比較結果をもとに分析を行い、これらの作業を通して得られた結果をまとめて、結論を導く。そして国内外で開催される学会で口頭発表したり、研究雑誌などに論文を発表したりして、成果を公表する。

(1) 先行研究の整理

いかなる研究であっても、先行研究の問題点を整理することから出発するものであり、本研究も例外ではない。本研究に関連する中国古典小説関連・中国出版文化史関連の書籍・雑誌などを購入し、先行研究の問題点を整理しておく。

(2) 資料の収集と整理

「版本研究」という本研究の性格上、版本資料はできるだけ原本に当たって調査を行うことが望ましい。しかしながら、各機関に蔵されている二十四卷系後期諸本は当然ながら貴重書扱いなので、借り出して別の所蔵機関へ持参して原本同士を比較することは不可能である。よって可能な限り写真撮影するか複写するかして、資料の収集に努める。そして収集した資料を容易に比較検討できるように、整理・印刷したりデジタルデータ化したりする。

(3) 収集した資料のデジタルデータ化

近年首都師範大学の周文業氏が「中国古代小説版本比較プログラム」を開発された。このプログラムを利用すれば、従来年単位の時間が必要であった各版本の一字レベルでの比較が、わずか数十分から数時間程度で行うことができる。本研究を遂行するためにきわめて有効なプログラムである。このプログラムを利用して本研究を遂行できるように、収集した資料のデジタルデータ（画像データ・テキストデータ）を作成する。

(4) 各種二十四卷系後期諸本の比較と分析

収集しデジタルデータ化を行った各種二十四卷系後期諸本について、周文業氏が開発された版本比較プログラムを用いて具体的に比較する。その結果をもとにして、各種二十四卷系後期諸本の相互関係・先後関係、さらに李卓吾本四系統との関わり方を考察していく。

(5) 研究成果の公表

国内で開催される学会・研究会はもとより、海外で開かれる国際学会に参加して、本研究の研究成果を報告する。国内だけに留まらず、海外に研究成果を発信してこそ、この分野の研究を大きく発展させることができると考えるからである。学会での報告と討論をもとに、論文を執筆する。そしてやはり日本国内の学術雑誌のみならず、中国で刊行される雑誌にも投稿し、研究成果を公表する。

4．研究成果

『李笠翁批閱三国志』は清代に成立した『三国志演義』の版本の一つである。書名に清代初期の著名な文人「李笠翁」、すなわち「李漁」の名前があることによって注目される。李漁本の文章の大部分は遺香堂本と一致する。したがって李漁本の底本は遺香堂本であろうと考えられる。しかしながら一部に遺香堂本とは一致せず、むしろ李卓吾本と一致する個所がある。だとすると、李漁本は部分的に李卓吾本を底本にしていると思われる。さらに、李漁本は部分的に毛宗崗本によって文章を修正している個所もある。李漁本の本文は複雑な様相を呈しているようだ。これも李漁本の特徴の一つと言えよう。

『精鑄合刻三国水滸全伝』と称する『三国志演義』と『水滸伝』を合刻した版本は、清代後期に現れた「漢宋奇書」本を除くと、現在二種類が存在している。すなわち『三国志演義』部分が半葉十三行である原刻の「英雄譜本」と半葉十四行の「二刻英雄譜」本である。この両者の文章はそれほど大きく異なるものではないが、本文中にわずかに文字の異同がある。そして十四行本の本文は十三行本を基にして編集された翻刻本である。よって両者は明確に区別しなければならない。しかも「英雄譜」本と「二刻英雄譜」本は、それぞれに原刻本と覆刻本が存在している。したがっていわゆる「英雄譜本」と呼ばれる版本は、実際には、「英雄譜本」の原刻本と覆刻本、「二刻英雄譜」の原刻本と覆刻本の四種類が存在していることになる。

「遺香堂本」と称されている版本には六種類があるが、そのうち、イェール大学図書館蔵本・東京都立中央図書館蔵本・中国国家図書館蔵本・北京大学図書館蔵本の四本が同版である。そしてその印刷の順序は、北京大学本が最も早く、イェール大学本がそれに次ぎ、三番目が都立中央図書館本で、印刷の最も遅いのが国家図書館本である。また、アメリカ議会図書館蔵本と張青松蔵氏本はイェール大学本などと版を異にするが、この両者が同版かどうかは、残存部分の関係から、判断することはできない。また張青松氏蔵本は、イェール大学蔵本などの祖本として位置づけられる版本である。遺香堂本の本文は『李卓吾先生批評三国志』のうち呉観明本を底本としている。そして、(1)底本の語句や文を省略する、(2)底本の文章に対して語句や文を付け加える(3)ある一定の長さの語句や文を書き改める、という特徴を持つ。

『鍾伯敬先生批評三国志』は、天理図書館と東京大学東洋文化研究所にそれぞれ蔵されている。これらは同版である。そして出版の順序としては、天理図書館本のほうがわずかに早い。

四種類の『三国志演義』二十四巻系後期諸本の版本のうち、鍾伯敬本・英雄譜本・遺香堂本(遺香堂祖本)は李卓吾本の一つである呉観明本を直接の底本として成立したものである。また李漁本は遺香堂祖本を底本とする。このことは、呉観明本から明末清初期の『三国志演義』版本の多くが派生していることを意味している。明末清初期の『三国志演義』版本の成立と出版を考える際に、呉観明本は決して軽視してはいけない、極めて重要な版本なのである。

5．主な発表論文等

(雑誌論文)(計 7件)

1. 遺香堂本『三国志』について

『狩野直禎先生追悼三国志論集』(三国志学会編、汲古書院)、2019年9月刊行予定

2. 『精鑄合刻三国水滸全伝』の『三国志演義』について
『中国古典小説研究』第22号、2019年3月刊行予定
3. 『三国志演義』二十四卷系後期刊本諸本について
『立正大学文学部論叢』第142号、2019年3月
4. 『李笠翁批閱三国志』再考
《三国志研究》第十三号(三国志学会)、P86-100、2018年8月
5. 关于《精鑄合刻三国水滸全伝》之《三国志演義》
《第二届世界汉学论坛、第十七届中国古代小说戏曲文献暨数字化国际研讨会会议论文集》、P118-127、2018年8月
6. 关于《三国志演義》二十四卷系统后期刊本諸本
《2018年第17届中国古代小说戏曲文献暨数字化国际研讨会论文集》(马来亚大学)、P370-376、2018年8月
7. 《李笠翁批閱三国志》再考
《2017年第十六届中国古代小说戏曲文献暨数字化国际学术研讨会论文集》(中国传媒大学)、P403-415、2017年8月

〔学会発表〕(計 6 件)

1. 欧州図書館における『三国志演義』版本の新発見
三国志学会第十三回大会、2018年9月15日、早稲田大学
2. 关于《精鑄合刻三国水滸全伝》之《三国志演義》
第二届世界汉学论坛、第十七届中国古代小说・戏曲文献暨数字化国际研讨会、2018年8月17日、Witten University
3. 关于《三国志演義》二十四卷系统后期刊本諸本
第十七届中国古代小说、戏曲文献暨数字化国际研讨会(马来西亚站)、2018年8月12日、马来亚大学
4. 数字化时代的古代小说版本研究——以《三国志演義》版本研究为例
“数字化时代的中国俗文学研究”学术研讨会、2017年8月27日、中国传媒大学
5. 《李笠翁批评三国志》再考
2017年第十六届中国古代小说戏曲文献暨数字化国际学术研讨会、2017年8月26日、中国传媒大学
6. 关于遗香堂本《三国志》
第15届中国古代小说、戏曲文献与数字化研讨会、2016年9月2日、早稲田大学

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。